（様式１）　実践事例

学校名	国見町立県北中学校		校長名	早﨑　保夫	
住　所	福島県伊達郡国見町大字森山字西上野２０		生徒数	２５５	学級数　１０
TEL	０２４－５８５－２３７２	ホームページアドレス	http://www.kenpoku-j.fks.ed.jp/		

「自ら学ぶ力」を育てる教科指導の工夫」

１　少人数指導の方針

○　主体的に学ばせるために課題を明確にし，自己目標をもって授業に臨むようにさせる。
○　班の構成を工夫してグループでの学び合い活動をより効果的にし，少人数教育のよさを生かし，一人一人の発表の機会を多く確保するとともに，自分の考えを表現しやすい場を設定する。
○　学び合いを通して向上した自発的な学習への意欲を，「自ら学ぶ力」として定着させる。

２　実践の概要

（１）数学科　　学習の自己目標をもち，生徒が相互に学び合う場の設定の工夫と実践

プロジェクター（ＯＨＣ）を毎時間活用して既習事項の確認をし，その内容を本時の課題につなげるようにした。その際に本時の学習に対する自己目標をもつように促し，教師はそれを意識しながら，発問・指示を行った。こうした取組を継続してきたことにより，生徒は主体的に授業に取り組み，発言の機会が増え、多様な視点から学び合うことができるようになった。

普段から個人思考の時間を確保して自分の考えをまとめさせた後，４人程度のグループに分かれて学び合いの場を設定している。教師が手がかりとなる視点や考え方を伝え，その後じっくりと問題に向き合わせた。生徒は，学び合いの中で公式や定理などを使いながら数学的に説明したり伝え合ったりと主体的に学習する姿が見られた。

（２）理　科　　学び合いの中で，自分の考えを表現させる指導の工夫の実践

導入において，課題解決にせまる既習内容を確認し見通しをもたせた後，５分間で自分の考えをワークシートに記入させた。班活動では一人一人の発表時間を３０秒間確保し，発表する時の視点や内容について伝えた。生徒は、ノートに書いた言葉や文だけではなく，図を説明したり，モデルを動かしたりしながら自分なりの手段で自分の考えを表現していた。

班としての考えをまとめる際，互いの考えを比較・検討し，根拠に基づいて課題解決にせまる意見の交換が行われていた。それを，分かりやすく説明できるように小型のホワイトボードに表現しながら学び合いを行うようにした。また、全体発表の際は，すべての班がワイヤレスの実物投影器を用いて発表する機会を確保した。各班から出された考えを教師が価値付けしながら類型化し，全体で思考の共有と吟味を行うことで，生徒はまとめまで意欲的に取り組んでいた。

３　実践の成果と課題

○　個人思考の時間を確保して学び合い活動の場を設定することで，どうすれば自分の考えが相手に伝わるか，より伝わりやすい表現について考えるようになった。また，相手の意見を参考に，自分の考えを修正・発展させていく姿が見られるようになった。
○　学び合いの中で，既習内容を意識させたり，図やモデルなど文章以外のものを使って表現させたりすることで，主体的な取組につなげることができた。
○　生徒一人一人の発表の機会を多く設定したことにより，表現力，発表力が身に付き，学習意欲が高まった。
●　生徒たちの考えをより深めるために，学び合いの形をさらに工夫する。
●　学び合いを深めるために，できるだけ多くの生徒の考えを全体に提示し，考えさせる場面をつくる。